

第四章 国際化への道を拓く

明柔、イン・ザ・ワールド

海外で柔道指導

柔道指導者が民間大使として海外で果たした役割は大きい。東京オリンピックに正式種目として登場した柔道は、今日正に世界の柔道となり、アーティン・オリンピックには九十四カ国が柔道にエントリーしている。この事を思う時、戦前戦後を通じ海外で普及指導にあたつた人々の努力に敬意を表さずにはいられない。

我が明柔も講道館より派遣され、多くの指導者を海外に送つて来たが、どちらかといえば短期の巡回指導にあたつたケースが多い。それでも長期滞在の専門指導者から、留学生や会社の駐在員として滞在中にキャリアをかわして指導にあたつた人々は、十六カ国、二十三人にのぼる。今回は後者にしほつて書く。

戦後、先ず最初に出かけたのは、富賀見真典（三十三年度 大分県出身）フランス。篠原一雄（三十四年度 愛媛県）アメリカ。鵜沢俊康（三十二年度 千葉県）スペインの三人で、昭和三十五（一九六〇）年のことである。富賀見はフランスのナショナルコーチを務めたのだが、当時の連盟会長ボネモリ氏が「東京オリンピックを控えてフカミのような優秀選手を外国に出す日本柔道の層の厚さははかり知れない……」と雑誌にかたつっていたほど、当時のヨーロッパ柔道界で著名な存在であった。一六五センチ、七五キロの体

業師といえば同年アメリカに渡つた篠原も知る人ぞ知る、というより部の歴史に名を留める技の持ち主であった。彼は留学生としての渡米であったが、全米選手権大会のタイトルをとり、数々の大会やデモンストレーションで講道館柔道のすばらしさを披露した。彼は三年生の時、膝を痛めた神永主将の代理で急遽ブラジルの巡回指導に派遣された。その体験が後に海外を志向させたものと思われる。アメリカには篠原以後、大林貞人（三十六年度岩手県）が行つてているが、指導の期間は短かかった。

スペイン大学の教授である鵜沢は、在学中から海外雄飛の希望に燃えてスペイン語を学び、卒業後しばらくは陸送の運転手をして渡航資金を貯えたといふ。富賀見は現役をおえてレバノンのベイルートに移り実業家として成功しているが、道場経営にもあたつており、レバノン柔道にとって重要な存在である。フランスには富賀見以後、大国伸夫（三十七年度 広島県）鳥海又五郎（三十九年度 東京都）がつづき、それぞれ約一年滞在した。大国はフランスでの指導を終り稽古着をぬいだが、滞在中に身につけたフランス語とファッショングのセンスを実業に生かし、家業の大同商会を業界トップの有名ブランドシューズ輸入元にのし上げた。二年後輩の鳥海は帰国後京葉ガス（株）の監督として実業団柔道で活躍していたが、五十一年サウジアラビア政府の招聘を受けて、同国のナショナルコーチに就いた。以来帰国まで九年間、生活環境が日本と著しく異なるサウジアラビアで頑張った。大国、鳥海が引き上げて二十年近くなるが、この間大勢の明柔関係者が国際大会出場や、短期の指導などでフランスを訪れているが、若手OBが西南部のボルドー市に住し、勉強のかたわら地区の協会で指導にあたっている。吉田尚生（五十七年度 長崎県）と、末金修（六十年度 福岡県）である。

西ドイツには渡辺政雄（二十九年度 東京都）が三十六年に派遣された。渡辺は協会トレーナーとして二年間デュッセルドルフに滞在し、全国を巡回指導した。東京オリンピック後、金メダリスト中谷雄英（三十九年度 広島

県）が渡辺と同じ立場で指導にあたり、成果を上げている。当時一級の選手であつた渡辺、中谷の指導が西ドイツ柔道にあたえた影響は大きく、今でも両氏の名前が関係者の話題にのぼるという。

明柔はベルギーにも二人の人材を送っている。ベルギーの柔道は講道館国際部長の要職にある安部一郎氏（教育大OB）が基礎作りをしたところでヨーロッパチャンピオンで来日すると明大道場に必ず顔を出すバンドワール選手や、世界女子柔道ナンバーワンのフロバット選手を生んでいる。

田中章雄（三十六年度 東京都）は安部氏を助け、四十年から二年間、青年スポーツ省のコーチを務めた。彼は全日本選手権大会三位のキヤリアを持つ実力者であるが、コーチとしても手腕を發揮した。ベルギーの連盟は田中以後も定期的に日本からコーチを招いているが、明柔からは四十六年に佐々木満（四十年度 広島県）が呼ばれている。

ヨーロッパで教えたOB達の最後に登場するのはポーランドで四十一年から四年間活躍した富田弘美（四十年度 宮城県）である。彼は、現在も第一

線の指導者として頑張っているが、何と現在地は北国ポーランドを遠くはな

れた常夏カリブ海の島国ブルトリコである。卒業一年たらずでポーランド

のワルシャワに赴いた彼は、柔道の指導と平行してポーランド語の勉強に急

ピッチを上げ、極く短期間にこの国の言葉をおぼえてしまつたという。外国

で仕事をする時、その国の言葉をいかに早く使えるようになるかは、大きさ

にいえば事の成否にかかる問題である。東京オリンピックを機に急速に柔

道熱が高まつて来た西ヨーロッパとソ連の間で、東ヨーロッパの柔道はまだ

始まつたばかりであった。しかし富田は受け持つたポーランドナショナルチ

ームの中から、ヨーロッパ選手権大会の上位に食い込む選手を短期間の間に

作り上げてしまつた。丁度彼がわずかな日数でポーランド語をマスターした

ように。これに刺激された周辺国のハンガリーやチエコも、急遽柔道普及に

乗りだし、ミュンヘンオリンピックの時にはこれらの国々と西ヨーロッパと

の差がほとんど無くなつていた。ポーランド人といえば、世界でも体格のよさではきこえているスラブ系で、俊敏な業師ではあつたが中量級の富田にとつては、指導に骨のおれる相手であつたと思われる。彼が四年生の時、明治は学生優勝大会決勝で拓大に〇一一で敗れ優勝を逃した。失つた一点は富田が拓大のポイントゲッターで留学生選手だったD・ロジャースに押込まれたもので、彼はその時の悔しさを今も時々思い出すそうだ。卒業後間もなく日本を離れ、以後今日まで外国人指導に情熱を燃しつづける執念が、あの一敗とどこかで結びついているようと思う。のちカナダを経て現在ブルトリコ、サンファン大学教授。昨年は男女ナショナルチームを率いて東京にやつて來た。「東欧の労働者諸氏にくらべて陽気なのはいいが、格闘技よりもダンスやサーフィンが好きな奴らで……」とこぼしていたが、それだけにトミタイズムが彼等の稽古や道場での所作に現われていたのが嬉しかった。

中南米には富田の他、山口友孝（三十五年度 静岡県）と平島征也（三十五年度 大分県）がいる。ともに三十六年に日本を離れた。山口はメキシコシティに道場を持ち多くの弟子を育て、又連盟の指導者としてメキシコ柔道に尽した。ブラジルに農業移住した平島は、ミナス州ベロオリゾンテで会社を経営しているが、今もヒマを見て稽古着をつけるという。

さて、明大柔道部が育てた柔道といつてもいい過ぎでない国がある。古代地中海に霸をとなえたフェニキア人の国カルタゴ、現在のチュニジアである。この国との関わりは駐日大使が在日中に柔道にとりつかれてしまつた事によるものだが、東京で彼に柔道のすばらしさを教えたのが押切義春（二十三年度 東京都）である。というところから始まる。

チュニジアは北アフリカで大戦後最初に独立した国で初代駐日大使、セドキスマ氏は、そうした国の官僚らしく進取のスピリットに燃えた人物だつたらしい。彼は帰国後ただちに連盟を設立して東京オリンピックに選手を送つて來た。そして一層の飛躍をはかるべく、師匠である押切にコーチ就任を

懇請して來たという訳で、押切はこれを受けて四十一年から二年間チュニスに滯在し、技術指導から連盟の運営まで懇切に指導して、後輩の段上雄二（四十年度 東京都）に引き継いだ。段上の意欲的な指導活動は学生や青少年の柔道熱を一層たかめることとなり、柔道人口も漸増していった。段上は在任中にチームを地中海オリンピック大会で優勝させて、小藤田勝彦（四十年度 東京都）に、小藤田はまた太田正人（四十三年度 東京都）へと任務を引き継ぎ、チュニジア柔道を大きく発展させた。後にアフリカチャンピオンになつたアリ青年は、段上が日本へつれて来て明治できただえた選手である。太田以後は、アリ選手のような指導者も育つた事から、直接の関係はどうだえたが、押切のもとへはコーチ依頼の連絡が再三あるという。このチュニジアと鳥海が教えていたサウジアラビアはイスラム圏の国であるが、永吉勝憲（三十九年度 鹿児島）が滞在指導したシリアもこの圏内の国である。さて最後は、アジアで、三十七年から三年間、コンサルティングの仕事で、ラオスのビエンチャンに駐在した小林敏邦（三十三年度 北海道）と東南貿易（株）インド駐在員として五十八年から二年間ゴアに駐在した吉井敬吉（四十七年度 東京都）である。小林の赴任したラオスは、旧仏領インドシナ三国の中では、地勢的な不利もあって最も開発が遅れ、すべてがこれからの中であつた。したがつて一般国民はスポーツに対する認識もうすく、柔道などは少数民族の外国生活経験者と、駐留フランス軍がレクリエーション程度にやつているだけであった。この小道場へ汗を流しにいった小林が、それを機にこの国の行政官達と交流を持つ事となり、柔道を適格な体育種目として普及をはかりたいとする彼等の要請をうけて、青年スポーツ省、国防省のアドバイザーに就いた。小林は帰国にあたりラオス政府より功労勲章を贈られている。彼によって途がついたラオスの柔道は、日本政府派遣の青年海外協力隊によつて引きつがれ、順調に発展したのだが、一九七五年のインドシナ革命によつて一時日本との関係が断たれたが、現在は旧に復し柔道人口も増加している。

吉井も小林と同様、たまたま出向いた道場でその実力をかわれ、ついにはゴア州柔道協会会长に推されてしまつた。知る人ぞ知る吉井の冴えた立技は、現地の柔道家を魅了するに十分であつたに違いない。彼は仕事の合間を見て技術指導を中心とした会長職を適切にこなし、会員の信頼にこたえた。
 （明柔）⁸⁶・L
 最後に海外に二年以上滞在して柔道指導にあつた明柔会員の名を掲げておく。

スペイン	鵜沢俊康
フランス	富賀見真典 大国伸夫
西ドイツ（旧）	鳥海又五郎 吉田尚生
ベルギー	渡辺政雄 中谷雄英
ポーランド	田中章雄 佐々木満
アメリカ	富田弘美
メキシコ	篠原一雄 古賀悠三
ブラジル	山口友孝
ブルトリコ	須磨周司 丸谷武久 平島征也
サウジアラビア	鳥海又五郎
シリア	永吉勝憲
レバノン	富賀見真典
チュニジア	押切義春 段上雄二 太田正人
	後藤田勝彦
ナイジエリア	鳥海又五郎
ラオス	小林敏邦
インド	吉井敬吉
台湾	西村良之

砂漠の国 サウジアラビア

一九六四年度卒 烏海又五郎



のような生活をごくあたりまえのことと受けとめ、何の疑問も感激ももつていらないようですが、国際間のかかわりの中で生きていかなくてはならない日本としては、今の繁栄におぼれ判断をあやまる、このあたりまえの生活があたりまえでなくなると思うのです。

日本を離れ砂漠の国サウジアラビアに来てから五年と十カ月たちました。九月に久しぶりに一時帰国いたしまして、緑の沢山ある自由の国日本に生れた幸せをつくづく感じた次第でした。

東京での一カ月半がアツという間に過ぎてしまい、また酒もなし、女もなし、喫茶店、映画館等の娯楽施設もなく、日中五〇度を超す猛暑の国へ戻るのかと思うと、心をふるい起こさないと出発する気持になれませんでした。サウジに着きました、もう一度日本の生活について考えてみました。

一カ月半の日本での生活は見るもの、食べるものの、自然の姿等々すべてが楽しく毎日が幸せを感じる気持でいっぱいでした。日本人はこ

のようないわることですが、柔道のような格闘技では、ハングリーの精神が勝負に勝つ根性を育てるといいます。小生が明治中学生の時、鈴木君（渋谷すずき経営）と一緒に赤羽の合宿所澄水園に何度も遊びに行つた事がありました。当時は神永先生が学生の時代で、きびしい生活の中から伝統ある明大柔道部が築きあげられていく様子を目のあたりにして、強く心をうたれました。（中略）

きびしい砂漠の気候にもわずかな変化があります。十一月から二月にかけては日中三〇度から三五度位で、日が沈みますと〇度近くになるというきびしい温度差ですが、一応我々にとつてはよい季節です。とはいものの夜は毛布が何枚も必要になり、ストーブも使います。また車は昼はクーラー、夜と早朝はヒーターという訳で、これは一年を通してかわりません。

この季節になると週末はよく友人達とつれだつて化石の採集に出かけます。この化石は、貝やサメの歯等が浮き出たもので、資料的にも美しさの点からもなかなか面白いものです。また夕方になるとカレーライスなどを作り、これとジュータンを持って砂漠に出かけます。そして皆で食べながら太陽の沈むのを眺めます。砂漠の夜は空気が澄切つていて満天の星は降るようです。広大なアラビアの大地にあお向けになつて宇宙を見上げていると、砂漠の砂粒のような自分の存在があらためて認識されます。この国も二月、三月にはわずかに雨が降ります（年間七日ほど）。そしてほんのわずかですが砂漠にも原色の美しい花が咲きます。又ベドゥイン（遊牧の民）が砂を堀つてキノコを取つて来ます。これをステップに仕上げると素晴らしい、パリの高級レストランも顔負けというものです。また数少ない小動物、猿、狐、ウサギ、ハリネズミ等が目立ちだすのもこの季節です。

（明柔 83・L）

シリアルから

一九六四年度卒 永吉勝憲

五年前会社の仕事でサウジに駐在しておりました。この時期鳥海君が協会のコーチとして同地に滞在しておりましたので時々会つておりました。丁度私が帰国の時期を迎えた頃鳥海君の契約が終り、彼の後をどうかという話あり、私も稽古を続けておりましたので会社の了解を得、講道館の推薦も頂いてサウジアラビア柔道協会と二年間の契約で指導することになりました。鳥海君は帰国後今度は外務省国際交流基金の派遣で再びやつてまいりまして、以来二人で地域を分担して指導してまいりました。そして先般私の契約が終るにあたつて今度は私の方に国際交流基金の専門家としてシリアルで指導をしないか、という打診が講道館よりありました。私もこれまでのアラブでの経験をより実らせるチャンスかと思い、シリアル行きを決心いたしました。このシリアル派遣に際しては、ジャパン石油開発の岩井先輩、講道館の関係者の方々、交流基金の方々に種々お世話になり、ありがたく思っております。

今、私が指導しておりますのは週六日で、軍

隊と警察を午前中見て、午後からはスポーツセンターで青年一般の部を見ております。

シリアルの人々はアラブで最初に日本の指導者が来て柔道を始めたという歴史に誇りをもつて

おり、それだけに皆熱心で根性もあります。軍隊警察はもとより各大学にも柔道部があり、また街にもかなりの個人柔道クラブがあり、六、七歳の子供から一般の部まで、また中には女性まで、それぞれ柔道に空手にとはげんでおります。お国柄から軍隊は柔道、空手をとり入れた格闘技の訓練は不可欠のものようです。しかし指導者は初段、二段クラスの現地人なので、かなり大ざつぱなものです。今後はこのあたりを中心によりきめの細かい講道館柔道伝達のため頑張つて行くつもりです。『明柔'83・L』

今回（一九八六年）は、嘉納杯大会に備えて、一ヶ月も日本で練習をする機会を得ましたので、講道館をはじめ明大道場他各大学を廻つて稽古をさせてもらいました。

お陰様で、各選手とも日本の柔道を身をもつて体験でき、得意満面でシリアルへ帰つてきました。

（明柔'86・L）

国民性は、と言えば、遠い昔より今日に至るまで数々の侵略を受けてるので、非常に警戒心が強くまた闘争心が人一倍あります。したがつて、格闘技には、もつてこいの国民性と言えます。

シリアルの柔道の歴史は、比較的古く三十年位前、一人の先生方（ポルトガル在住の小林先生、現在講道館役員の女川先生）によって伝えられ、その後、協力隊員が二～三年交代で指導していくことですが、私が着任するまでの十年間

は、長期の日本人指導者がいなかつたためか、現地人コーチによるソ連のレスリング式柔道になつてしまつており、基本から教え直さなければならず、非常に苦労しましたが、この三年間の間に日本の学生選抜チームの合宿訪問、razilでの全日本チームとの合宿練習他、日本（講道館、全柔連）サイドの厚意的な協力によつて、なんとか国際試合が出来るまでに成長しました。

シリアルでの全日本チームとの合宿練習他、razilでの全日本チームとの合宿練習他、日本（講道館、全柔連）サイドの厚意的な協力によつて、なんとか国際試合が出来るまでに成長しました。



世界目指すチュニジア柔道

一九五四年度卒 押切義春



は一九七七年に開設された。

建国精神は教育

一九六四年東京五輪から柔道が正式種目となり国際化が急速に進展した。

スラマ氏も帰国後、柔道の組織づくりに奔走しながら政府高官達へ嘉納開祖の柔道理念を説き、理解を求めていた。

- ①柔道は和を以て尊しと爲す平和主義
- ②互敬による礼法を義務とする人道主義
- ③人格の陶鑄と世の補益を行う道德教育

この理念は教育を重視する建国精神にも合致していることが徐々に認識され、柔道への扉が開かれることになった。

そして、一九六六年チュニジア政府の招請により私が現地で直接、指導することが決定した。当初、チュニジアには数カ所の個人クラブが存在していたが、私の指導のもとで技術面の統一を図りながら、連盟の人づくりも支援した。やがて学校や地域にクラブ数も三十カ所をこえ柔道人口も二千人を数えた。

スラマ氏は日本の伝統文化に興味をもち、特に、小よく大を制し、礼に始まり礼に終る柔道に魅せられ講道館へ入門、私が専任教師として指導を担当、時折り明大道場でも特訓を実施した。やがて精進の甲斐あって初段に昇段したが

一九六三年、帰国した。のちチュニジア大使館に満ちた苦労には私も胸が熱くなる想いで共感

チュニジアへ貢献した明大柔道

チュニジア柔道の歴史的な先駆者として、明大OBの果してきた役割は大きい。

一九六七年、私がチュニジアを離任する際、スポーツ大臣と会談し、私の帰国後も引き続いだ日本人教師により、私の指導路線を継続願いたい旨ご提案申し上げたところ直ちに快諾を賜り、目標設定のもと講道館柔道は一貫して計画的に実行されることになった。

以来、各自は連携して明大の誇りと高い志をもつて現地の環境に自ら溶け込み、チュニジアを愛し、チュニジア柔道の発展に寄与した。

(敬称略・卒業年度・滞在期間)

①押切義春 (一九五五年商卒)

一九六六年～一九六七年

②段上雄二 (一九六六年法卒)

一九六八年～一九七〇年

③小藤田勝彦 (一九六六年農卒)

一九七〇年～一九七一年

④太田正人 (一九六九年政経卒)

一九七二年～一九七三年

なお、現在、I・J・F事務総長ヘディ・ド

ウイーブ氏、アフリカ連盟財務長メヘルシー氏、チュニジア前会長ホスニー氏はカタール会長、

歴史の証言

親子でアフリカ選手権優勝のハンシャファアミリ等は当時、明大OBから直接、指導を受けた面々で、今や世界柔道の指導者として活躍している。

また、ドウェイーブ氏は私の推薦により日本政府から勲三等の叙勲（一九九九年）に輝く親家だ。

チュニジアから世界チャンピオン

アフリカから初の世界王者誕生 マスコミが一斉に報じたのは二〇〇一年、世界柔道選手権（ドイツ）のことだ。この大会男子六十キロ級でチュニジアのルニフィ選手が初優勝したからである。彼は二〇〇三年世界選手権（大阪）でも野村選手に一本勝ちで銅メダルをとり再び注目を浴びた。しかし、アテネでは大いに期待されたが腰を痛めて出場できず大変残念なことになった。

さて、二〇〇四年五月アテネ五輪の前哨戦としてアフリカ選手権がチュニジアで開催され、私も招かれて観戦した。メダル獲得の国別成績は次のとおりである。

金銀銅の合計数*（）内は金メダル数

- ①アルジェリア 14 (10) ②チュニジア 15 (4)
- ③エジプト 9 (3) ④カマルーン 9 (1)
- ⑤モロッコ 7 (0) 以下略

国際柔道連盟加盟一八七カ国のうちアフリカ連盟として四ヵ国が占めている。エジプトは二〇〇五年世界選手権開催国として選手強化に積極的だ。今後の展開はチュニジア、アルジェリア、エジプトの三ヵ国が世界を目指してアフリカをリードするだろう。

おわりに

権利自由・独立自治は明大の建学精神として時代を刻んできた。

これは明大創立者の岸本、宮城、八代三氏が貢進生として明治政府の命により、パリ大学法学部長で、フランス法の權威、ボアソナード教授から学んだ哲理による。

その後、ボアソナード教授は法学者として明治政府に招かれ、のちに明大でも教鞭をとられた。

次いでチュニジアの大学もフランス法が基本となっているが、日本との共通点はこれ以外にも多い。①歴史的に昔は経済に優れ、軍事大国だった②敗戦という悲劇を経験した③資源に乏しく教育を国策としている、などである。

柔道で日米の架け橋に

一九五九年度卒 篠原一雄

憧れのアメリカ

昭和三十三（一九五八）年、大学三年の夏休みに全日本柔道連盟を代表してブラジル遠征の機会に恵まれた。誰が考へても神永主将が行くべきであったのだが、神永さんの膝の怪我の為、

文化等国際交流についての話し合いがもたれ、現在、納谷学長のもとでも継続されている。昨今、文明の衝突といわれる中東情勢や多様化する国際問題の中で、チュニジアはアフリカの先導的立場であると同時に、アラブ連盟の議長国を務めたイスラム国家の一員として、和解への地道な努力を続けてきた。

しかし、グローバリゼーションの時代の流れは大きなひずみと不公平な結果を生じ、悲惨な紛争の連鎖を招いている。

従つて、今後も多方面な共通の土俵を設けて、異なる宗教、異質な文化や価値観を持つ者同志が交流し、協同の場で議論を重ね、さらに相互理解を深めることは、国際社会に於ける歴史の教訓と言えよう。

代理のような選考の運に接する事が出来た。小谷澄之先生（十段）の用心棒のような渡米・渡伯で、ただ一人の現役随行。日本柔道の海外普及の一役を背負つたものであつた。その際にアメリカ合衆国を横断した経験から、サンフランシスコの街にほれ込んで、住んでみたいと考えた。昭和三十五年卒業と同時に、当然、私は貨物船に乗船、必然的にサンフランシスコに下船、暗中模索で、その路を探るも、余り良い歓迎はされる事もなく、仕方なく当時、サンノゼ大学に留学中であつた波多江建一先輩（昭和三十一牟卒・福岡在住）に渡りをつけた。先輩はサンノゼ大学柔道コーチのヨシ・内田氏と共にサンフランシスコまで迎えに来てくれた。

初日に稽古で、渡米第一号の練習相手が現アメリカ連邦政府上院議員のベン・ナイトホース・キャンベル氏であった。氏は私との練習を通して東京オリンピックを目指して明治大学でみつかり学びたいと決意、氏を明大柔道部に紹介する事になつた。ヨシ・内田氏は盛んに波多江先輩を通して、私にサンノゼ大学に留まるようすすめていたが、小谷先生にロスアンゼルスの人達に柔道を教えるながら学校に通う前提で渡米の紹介をして頂いていた為、ロスアンゼルスからお迎えが来てロスアンゼルスに連れていかれた。



ブラジル遠征。小谷澄之十段（右）と筆者

私がロスアンゼルスに到着したのと同時に、街の日系有力者の人達、第二次世界大戦前に日本人保護の目的で組織化された危い方々の残っている人等に紹介され、「篠原は柔道教師として来た若者でケンカ等は出来るだけ避けて仲良くなれてやつて欲しい」などと、何だか明治・大正時代に生まれ変わったような感触を持った。

渡米した頃のロスアンゼルス柔道界は一世の人達が主体になり、非常に盛んであった。私は二十才ばかりの道場の巡回指導教師を務め、昼間は会社（丸善石油ロスアンゼルス支店勤務）、夕方は道場巡り、週末は柔道大会で十人抜き、十五人抜きのデモンストレーションの明け暮れであった。どの道場も主任教師という連中が強い生徒達に手を焼いていた。生徒達の態度は悪いわ、考え方が乱れているわで全く話にならなかつた。生徒を窓から放り出して首になつたり、試合中に反則宣告をしたにも関わらず、試合をやめないので、選手を観衆の前で平手でぶん殴つて試合中断一時間とか、ロスアンゼルスの柔道のレベルアップの為に非常にインパクトを与えた。私の面倒を見てくれていた北海道出身の一世のお爺さんで長野喜郎先生（当時七段）は「篠原、悪い奴は殴つたつてオーライよ」と一〇〇パーセント私を支持してくれた。

出場資格について曲折があつたが、一九六二年のA A U全米選手権大会の出場が可能になつた。この大会では天理大学出身の今村春夫氏を三十秒前後で得意の釣込腰で投げることが出来て、グランドチャンピオンとしてアメリカ史上で一番小さい身体の軽量級がグランドチャンピオンになるという偉業を成し遂げたと、今もアメリカでは話が語り継がれている。翌年の同大会優勝戦では明治大学柔道部の後輩の大林君と激戦、優勝を再度果たした。全米A A Uグランドチャンピオンとしてあつちこつちから御声がかかり社会から認められると、その後は柔道で多忙を極めた。講習会、試合審判、十～二十人抜きなど各地へ出張した。

良い事は直ちに実行

一九六三年だったと思うが、デトロイト市に審判員監視役として招待された。まあ、審判員のお粗末さに閉口した。私は審判員のミスった事項をインデックス用紙に一つ一つ記録していった。大迫氏（全米の柔道専門指導員・I J F アメリカ代表理事）が、「篠原、お前は何をしているのか？」と聞いたので、私は「この審判員達の見落としているポイントをコンピューターで監視出来ないかと考えている」「研究資料を作成しているのだ」と答えたところ、「そういう

う素晴らしいアイディアは直ちに採用すべきだ」と大迫氏は感動してその対策に乗り出し、I J Fに働きかけて結果としてアメリカが「有効」「効果」システムをI J Fに認めさせた。

東京オリンピックに柔道を取り入れさせたのもアメリカである。日本ではない。アメリカは新しい事で良いと思うことは直ちに実行する国だ。柔道の体重別採用もしかり。柔道をオリンピックに正式種目として採用してもらうためのプッシュをする目的で、一九五〇年前後からアメリカが先頭を切つて、体重別試合を実行した

が、当時、講道館は真っ向から反対、アメリカ在住日系人（特に一世の人達）も「柔能く剛を制すが柔道の醍醐味」などと猛烈な反対をして

体重別など相手にしなかった。その理由で、その頃のI O Cは五〇kg選手と一〇〇kg選手が試合をするのは危険が伴うという理由でスポーツではない、という考え方で、日本柔道とオリンピック委員会の距離は遠いものであった。それをぶち破り先頭を切つてI O Cの考えに柔道を合致させたのもアメリカである。

この「有効」「効果」システムのI J F採用が副産物として試合方法、練習方法で一〇〇パーセントの技を練習しないで一〇パーセントの「有効」「効果」システムは私が原因で出来上がり、柔道がスピードディーに世界に普及した事とは、汚い柔道などと心を痛めている人達がいる

と思う。しかし、ボクシング、レスリング等のボイントシステムと似通つており、世界的に大歓迎された。世界の柔道に向けて、有効・効果方式は、当時の柔道の世界的発展の流れにのつたと言える。また、外国人に柔道の勝負が合理的に受け入れられ易くなつたのと、審判員の判断材料が納得し易くて、曲り角にあつた世界柔道の指導者不足などの環境の中で有効・効果方式の審判規定が公平且つ解かり易いが為に発展普及を妨げることなく柔道が大きく飛躍した事は注目すべきである。

何事も新しい事を始めると予期していない問題がいろいろの分野で起つて来るものである。そして、その予期出来ない想像から来る新しい問題を、恐れて何もしなければ、進歩はないのである。最近では、有効・効果を何本も取る選手には技あり、もしくは一本を与えようではないか？ などと、また一歩進みつつある。外国人には非常に分かり易いステップであろう。そのうちに外国人のこと、面倒だから、最初から一本を取る練習をしようではないか？ などと、またまた一歩進み、変わつてくると思う。そしてより一層効果的で簡単になるだろう。「有効」「効果」システムは私が原因で出来上がり、柔道がスピードディーに世界に普及した事を考へると今日の「有効」「効果」からくる、柔

道スタイルになってしまった事に対し、私は後悔はない。しかし、現在の世界の柔道が私自身の持ち技から程遠いものになつていて、何とかして美しい柔道に改善したい希望事を、何とかして美しい柔道に改善したい希望は持つてゐる。

精力善用、自他共栄

その後、一九六四年から七〇年過ぎまで、私生活面で悪戦苦闘した。

立ち直るためにアメリカの会社に就職、死に者狂いで働いた。そうこうしているうちに、やつと一息つき始めた頃から柔道というものを、命を救つてくれた一つのカギとして再認識し始め、どうしても「精力善用」「自他共栄」のスローガンが頭から、はなれなかつた。

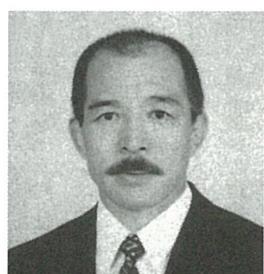
私はこの柔道スローガン、「精力善用」「自他共栄」を日本とアメリカの親善に連結させるのが二十一世紀の課題ではなかろうかと思う。

一九七〇年から二十年間は柔道界には何の関与もしなかつた。しかし、九二年頃、サンノゼ大学のヨシ・内田氏と話したのがきっかけで、再び全米柔道総括団体(USJF)の活動にかかることになった。現在、日本の米学生OBでアメリカに於て全米柔道総括団体(USJF)の中心として活動を許されているのは、私だけである。私個人の意見だが、全米在住で学柔連

柔道発展に寄与してもらいたいと念願している。

カリブ海の島 プエルトリコ

一九六五年度卒 富田弘美



私がこの国に柔道指導のため赴任して、早いもので間もなくあっけ十年になります。

プエルトリコは、アメリカのフロリダ州マイアミから南東海上約一六〇〇キロに浮かぶ美しい島です。この国はグアムやサイパンのようにアメリカの信託統治下にあり、完全な独立国ではありません。このあたりの国々について日本ではあまり知られていないと思いますので、ペルトリコを簡単に紹介してみます。

首都はサンファンで、全人口は三百七十五万人、うち白人が三〇パーセント、黒人が一〇パーセント、六〇パーセントが混血です。公用語はスペイン語ですが、街では英語が十分に通じますし、大学生はほとんど英語を話します。今、アメリカ本土では、この島からの不法入国者や

貧しい中米諸国の中には、生活水準の高い国です。ヨコ一六〇キロ、タテ八〇キロで、カリブ海と大西洋に面しているこの島は、いわゆる常夏で、ハワイの気候とよく似ております。日本からの便は、ニューヨークを経由して入りますが、成田から約十七時間で、サンフアンに到着します。

さて、私は、赴任以来現在まで、国立プエルトリコ大学に教官として勤務しております。この大学は地方に分校を八校持つてある大規模な大学です。この国にはこの他、私立大学が十校あり、人口比からいえば大学の多い国といえます。これらの大学のうち、七校に柔道部があり、リーグを結成し、この大学リーグがプエルトリコ柔道の中心になつております。私が指導しているペルトリコ大学は、全国大会で目下五連勝中で、女子チームも四連勝しております。リーグのリーダー的な存在となつています。

時のイロハですので、ここでもあせらずに自分
のペースにもつていくつもりでした。が、そう
思いながら、もう九年になってしましました。
この底抜けの明るさに、私自身も、ずい分怠け
者になってしまったようです。実力のほうは、
二年前にアメリカ東部学生大会に出場して優勝
した経験がありますがそのほかこれといえるも
のはありません。もつとも、実力とは別に予算
がなくて遠征試合も思うにまかせないというハ
ンデもありますが。

ここで、ノンビリしたこの国の人々の生活を
少しお知らせしましよう。ペルトリコ人も他

といつてもお国柄から、彼等のスポーツに対する認識が我々とはだいぶ違つており、したがつて日本やアメリカの大学運動部の活動とは比較にならないのんびりした練習内容です。例え

ば練習日は週三日、一日の練習時間は二時間と、遊びに毛がはえた程度のものです。これは何も柔道に限つたことではなく、他のクラブ活動も

同様です。私としては、練習量を増やして集中的なトレーニングをはかれば、まだまだ力がつくものと思っていますが、お国柄で、どうものつてはまいりません。私がかつて指導したボーランドや、二、三の外国での経験からいえば、先ずその国の国民性を把握し、これに合ったカリキュラムをたてるというのが外国で指導する

どちらがよいかは別にして、世間から仕事の鬼とか働き蜂とかいわれている我が日本国民とは、実に対照的な人生感を持つてゐる人々です。経済的に余裕のある国ではなく、日本にくらべると貧しいとさえいえる国民生活ですが、この陽気な国民性と明るい太陽と海が、貧しさのかげりを吹きとばしてしまふのでしょう。あらゆる生活の立地条件が違うとはいえ、金持なのに人にとって、實に示唆に富んだ生き方をしてい人の達です。

この小さな島国には、これといった大きな産業はありませんが、南洋の果物も豊富で、魚もとれます。コーヒーもおいしく、酒はラム酒が仲々のものだそうです（私は下戸なのでー）。

(『明柔』⁸⁴ · F)

メキシコ二十三年 素晴らしい出会い

一九六〇年度卒 山口友孝

私の柔道修業の出発点は、小学校五年、西伊豆土肥町の町道場での稽古が始まりでした。それから静岡県立沼津商業高等学校、明治大学、株式会社博報堂、二十三年間にも及んだメキシコでの柔道指導生活、その時代時代の生活の中心が全て柔道でした。

一九六四年柔道指導のためメキシコに渡りましたが、私の到着を現地の新聞、テレビが日本から偉大な柔道家が来る、と大きく報道しました。メキシコでの第一歩はY.M.C.A.道場にあふれるほど観衆を集めて、メキシコ最強の選手約三十人を一列に並べ、端から投げ飛ばすことに始まりました。当時世界に何人かの強い外国人選手が居りましたが、日本のトップクラスとの力の差はまだ歴然で、全員を自由自在に投げ飛ばして観衆の大喝采を受けました。外国で柔道の指導をする場合、先生は弟子より絶対に強くなければ弟子は付いてきません。メキシコ柔道協会が、国内選手権大会の試合後に、行事のごとく参加選手の中から私に挑戦する選手を集めると、五人掛け十人掛け、多い時は二十人

以上を相手に掛け試合をしました。掛け試合と言えば、カナダのウイニペグで開催されたパンアメリカ・スポーツ大会にメキシコのコーチとして遠征した時のこと、大会には日本から小谷澄之十段と教育大出の竹内選手、天理大出の山中選手が招待されて来ていました。大会一日目二日目は両選手が五人掛けを行い、大会三日目の日目は両選手が五人掛けを行いました。それぞれ違った技で簡単に投げ飛ばしました。これには同行のメキシコ選手達が大喜びでした。メキシコ在住二十三年間、数え切れないほどの掛け試合も一度の失敗もなく、帰国までメキシコ最強の柔道家であつたことが、私の自慢の一つです。

柔道がオリンピックの正式競技として初めて登場したのは東京オリンピック、次のメキシコ・オリンピック（一九六八年）でもと、大きくなり始めました。当時世界に何人かの強い外国人選手が居ましたが、日本のトップクラスとの力の差はまだ歴然で、全員を自由自在に投げ飛ばして観衆の大喝采を受けました。外国で柔道の指導をする場合、先生は弟子より絶対に強くなければ弟子は付いてきません。メキシコ柔道協会が、国内選手権大会の試合後に、行事のごとく参加選手の中から私に挑戦する選手を集めると、五人掛け十人掛け、多い時は二十人

柔道を修業すると、この様な体になりますと、私の筋骨隆々逆三角形の上体、また腕立て伏せ、腹筋・背筋力などを披露したり、元プロレスラーの有名アナウンサーの司会で、なかなか評判の番組でした。街を歩いていると「ヤマグチ」と親しく声をかけられるほど、有名になりました。

メキシコ・オリンピックの年、メキシコ・オリンピック組織委員会の選手強化合宿所内に道場が出来、私の給料も組織委員会から支給され、本格的にナショナル・コーチとして選手指導を始めました。

一九六九年第六回世界柔道選手権大会がメキシコ市で開催されました。明治大学からは浜野正平先生を団長にコーチ神永昭夫先輩、無差別級に篠巻政利、重量級に須磨周司が登場して、篠巻は決勝で切れ味鋭い大外刈りでオランダのルスカに快勝、須磨は豪快な背負い投げで勝ち進み、これも快勝。大会は日本柔道の全階級制覇という偉業で終り、メキシコで柔道指導をしている私にとつて最高のプレゼントとなりました。

ナショナル・コーチとしてオリンピック、パンアメリカン・カナダ・ボーリング大会、中央アメリカ・カリブ海スポーツ大会、世界選手権大会をはじめ各種の大会に参加、ミュンヘン（ドイツ）、モン

トリオール（カナダ）のオリンピックでは、メキシコ選手団の一員として、開会式の入場行進に参加しました。

メキシコの柔道選手達は何時も陽気で、面白い体験も数々ありました。中央アメリカ・カリブ海スポーツ大会で、自転車の選手と一緒にメキシコ海軍の老艦、カニヨネロ・ポットシー号でメキシコ・ベラクルス港からペルトリコまでカリブ海一周間の船旅をしたこともあります。子供の時から船に乗り慣れた私はカリブ海上に浮かぶ島を眺めながらの快適な船旅。選手は全員が二三〇〇mの高地に位置するメキシコ市出身、長時間の乗船経験が全く無く全員が船酔い、船首にあつたベッドルームには誰一人寝ず、一番ゆれの少ない船の真中にゴロ寝、食欲もなぐ一週間ほとんど寝たつきり。これで逆に十分に休養がとれたのか体重調整も問題なく、試合はキューバと金メダルを三個ずつ分け合い、他の選手も全員がメダル獲得という。メキシコの柔道史を飾る好成績でした。

メキシコ空軍のプロペラ機によるカナダ・ウイニペグまでの低空飛行の旅、キューバ遠征で、ソ連製の座席の狭いジェット機に乗つたときは少し怖かったこと。モントリオール・オリンピックまでメキシコ選手のナショナル・コートとして同行、遠征した国々は、ドイツ、カナダ、

アメリカ、パナマ、ベネズエラ、ブラジル、キューバ、サントドミンゴ、ペルトリコなどの諸国で、この海外遠征試合に参加して、そこで柔道関係者はもちろんのこと、世界中の人々との「素晴らしい出会い」、またいろいろな「素晴らしい体験」が出来ました。

カナダのモントリオール・オリンピック後は、ナショナル・コーチを引退、低年齢からの選手育成の必要性を痛感、そのためには柔道専用道場の建築が必要であると考え、メキシコ人の友人に相談しましたところ、ふたつ返事で賛成、自分の損得を全く考えず、ヤマグチのためメキシコ柔道のためと、メキシコ市の中心地の更地に九十畳の床下にスプリングを設置した、柔道専用道場ヤマグチ道場を二ヶ月で建築してくれました。

私は全くスペイン語の分からぬままにメキシコに渡りました。でも言葉の障害など到着時から一度も感じた事はありません。言葉は柔道指導生活の過程で自然と覚えました。

私の柔道指導生活が二十三年間もの長きに及んだのは、明治大学で鍛えて頂きました柔道の実力と誠意と優しさを、メキシコ人が評価理解してくれたことにあります。私の最大の

自慢は、二十三年間にProfesor Yamaguchiと尊敬してくれた五千人以上のJudokas de Mexicanosが存在したことです。当り前の事ですが、どんな仕事でも、世界中どの国でも、

またどの時代でも、相手を納得させる実力（技術）と誠意、そして優しさがあれば、「素晴らしい出会いと体験」の機会が次々と出来ることを確信致します。

道場建築に限らず、メキシコ到着から帰国までの二十三年間、私の柔道指導生活の周囲には選手生徒の他に、私の強力な協力者として、多数の素晴らしいメキシコ人家族が家族ぐるみで、私を支えてくれました。

この優しい好意に感謝する意味で、また私が

メキシコ人社会に、広く深く溶け込んだ「体験」として、こいつも記しておかねばなりません。

メキシコの永住の権利も取得し、また多数の友人、生徒達がメキシコ残留を願つてくれましたが、メキシコ大地震後には治安も悪くなり、子供の教育を考え、本当に楽しかった二十三年間のメキシコ柔道指導生活に悔いなく終止符を打ちました。

友人、生徒達がメキシコ地震後には治安も悪くなり、子供の教育を考え、本当に楽しかった二十三年間のメキシコ柔道指導生活に悔いなく終止符を打ちました。

私は全くスペイン語の分からぬままにメキシコに渡りました。でも言葉の障害など到着時から一度も感じた事はありません。言葉は柔道指導生活の過程で自然と覚えました。

私の柔道指導生活が二十三年間もの長きに及んだのは、明治大学で鍛えて頂きました柔道の実力と誠意と優しさを、メキシコ人が評価理解してくれたことにあります。私の最大の

自慢は、二十三年間にProfesor Yamaguchiと尊敬してくれた五千人以上のJudokas de Mexicanosが存在したことです。当り前の事ですが、どんな仕事でも、世界中どの国でも、

またどの時代でも、相手を納得させる実力（技術）と誠意、そして優しさがあれば、「素晴らしい出会いと体験」の機会が次々と出来ることを確信致します。

ブラジルから

一九六〇年度卒 平島征也



探険したいと願っていました。求めれば、道は拓けるといいますが、私も多少の紆余曲折を経、大学卒業三年後には、幸い憧れのブラジルの地を踏む運びとなりました。もちろん、目的地は遠い文明の彼方、『緑の魔境』と呼ばれている地域です。言葉も出来ないし、金も無く、柔道で鍛えた身体だけを資本に、未知の世界を求めて、独り旅立ちました。

「拝復、会報『明柔』」ありがとうございました御座居ました。卒業してもう二十年過ぎましたが、『明柔』を手にとると鮮やかに記憶が蘇り懐しさで一杯です。ご依頼の原稿の件ですが、私如きにとびつくりすると同時に、何を書いてよいのやら頭を抱えました。柔道に関する事でもと思いましたが、『お前の山の体験でも書け』といわれた様な気がして勝手ながら、あまり柔道に関係のない事を書いてしまいました。

それでは姿先生、神永先生を始め皆様に宜しくお伝え下さい。後輩諸君の活躍と『明柔』の発展を祈念して

子供の頃からの夢に、いつかアマゾンの奥を遙かなる密林

です。既に乾季に入っていたので、上流は浅い流れとなっています。道も無い、危険の多い密林の中を進むより、川の中をどんどん上流へ向いました。ある地点に適当な場所を見付けたので『よし、ここを俺の棲家にしよう』と決心しました。

もうこの辺まで来れば、全くの無人境です。周辺は四、五十メートルに達する巨木に覆われた千古斧鍼の大密林で、『緑の魔境』の名に相応しい地域です。まず、棲む家から作らなければなりません。密林の伐採、乾燥、山焼き、山小屋建設、便所掘り、山の小径作り、狩猟場作り等。

雨季が始まる前にやらなければならない仕事が山ほどあります。井戸だけは、一人では能率が上らないので断念し飲水は直接川の水を飲む事になります。四十度を越す炎天下（こここの木は乾季に百花繚乱、生れて初めて観る自然の美しい景観に、ただ呆然と佇み、『時の流れ』が止まってしまったのかと錯覚しました。

この町より先は、未開の原始林が果てしなく続きます。私はここより更に奥にある政府の薬草研究所と、原始林を開拓しているある農場で、暫らくの期間を働きました。この二ヵ所で多少の経験を積み、ある程度山の生活にも慣れ、知識を身につけたので再びここを後にしました。

目指したのは、アマゾン河とラ・プラタ河の分水嶺近くの、人跡未踏といわれる水源地地帯

です。既に乾季に入っていたので、上流は浅い流れとなっています。道も無い、危険の多い密林の中を進むより、川の中をどんどん上流へ向いました。ある地点に適当な場所を見付けたので『よし、ここを俺の棲家にしよう』と決心しました。もうこの辺まで来れば、全くの無人境です。周辺は四、五十メートルに達する巨木に覆われた千古斧鍼の大密林で、『緑の魔境』の名に相応しい地域です。まず、棲む家から作らなければなりません。密林の伐採、乾燥、山焼き、山小屋建設、便所掘り、山の小径作り、狩猟場作り等。雨季が始まる前にやらなければならない仕事が山ほどあります。井戸だけは、一人では能率が上らないので断念し飲水は直接川の水を飲む事になります。四十度を越す炎天下（こここの木は乾季に落葉する）で、来る日も来る日も黙々と斧をぶるいました。森闊とする密林にこだまするは『コーンコーン』という寂しげな斧の音だけです。しばし手を休めると、すぐ無気味な静寂に戻ります。ここは未だ人間の文明を拒否している『音のない世界』なのです。今更ながら、遠くへ来た事を、ひしひしと肌に感じます。いつも猛獸や毒蛇などに襲われても、すぐ聞えるよう腰にはピストルと山刀、すぐ脇には鉄砲を立てかけ、周囲の警戒も怠りません（但しその必要は全然なかった）。

灼熱の太陽、粗末な食事と生水、無数の吸血虫、慣れない重労働には、さすがに應えます。

山焼きの火、照りつける陽に、焦熱地獄さらがら、身も心も焦げ尽しそうです。日も暮れ綿の如く疲れた身体をハンモックに横たえると、毎晩発熱し、関節という関節が疼き「バラ、バラ」音をたて、壊れてしまいそうです。しかし早朝、すがすがしい空気を胸一杯吸い込むと、熱も痛みも何処かへふっとび、新しい生命が蘇つて来ます。悪戦苦闘の末、ついに密林の木とカズラと椰子の葉のみで、粗末ながらも我が家が出来上り、万感胸に迫ります。「さて、これから何をすべきか」と考えていたら、もう食料も底を尽き、今晚の食物すら無いのに気付き、慌てたものでした。そして、今日からは食料も自分で確保（採集）しなければ一日として生きていけない、という現実に早くも直面し、慌てました。

この時はすぐ狩猟に出掛けましたが、密林の中もそう甘くはなく、薄暗くなり始めた頃、手ぶらで今日完成したばかりの山小屋に辿り着きました。「何か喰わなければ」腹は減るし、気は焦るし、惨めになります。その晩は前の川で小魚を釣り、飢は凌ぎましたが、これから先の事を考えると、不安と期待が入り混じり、胸が高鳴り、なかなか寝つけませんでした。

それから約五年間を、狩猟と薬草採集を生活

の糧として、密林の中で独りで過しました。ある時は、密林の王者ジャガードとの対決、六メートルを越す大蛇スクリーとの格闘、インディオとの出遭い、マラリアに倒れた事等々。とにかく、毎日が新鮮な驚きの連続にいつしか不安も消え去り、未知の世界へ魅入られ、虜になつてしましました。森に同化し“森の住人”となつてしましました。

以上は、十数年前、私が渡伯した当初の頃の話ですが、以来今日まで、私の心を支え励ましたくれた事があります。その一つは、自分が日本人であるという自覚。当り前の話ですが、海外で生きる者にとっては、日の丸を背負う事になります。もう一つが、明大の柔道部で鍛えてもらったという自負です。これは、心身両面の自信となって、いつも私を力強く支えてくれております。

フランスで思うこと

一九八二年度卒

吉田尚生

只今私が住んでおりますところはタンブルという田舎町で、パリから南西へ六三〇キロのところです。中世の古城や広い牧草地等南フランス

ス独特の雰囲気をもつ快適なところですが、日本人が一人も住んでおらず、当初は大いに困惑いたしました。

柔道の指導について申しますと、弱輩の私が人に教える事自体恥しい限りなのですが、ともかく派遣していただいた以上精一ぱい頑張って任務をはたすつもりです。今私は道場で練習生数名と寝起きを共にし、朝のトレーニング、午後、夜の稽古と言葉の通じないぶんを練習で力バーすべく精を出しています。といいますのは十月末にパリで全仏ジュニア大会が開かれますが、この大会におかげで当道場からも二名（九五キロ級と六〇キロ級）の選手が地区予選に勝ち、出場がきまっているからです。地区予選に勝つためこの夏はバカンスを返上して猛練習をしました。

フランス語の勉強について申しますと、これは柔道指導のためにも、私が将来目標としている仕事のためにも必要不可欠なことがありますので、近くの小学校の先生について週五日のレッスンに励んでおります。全くのゼロからの出发ですので当然のことながら最初はまったく授業になりませんでした。大の男がまるで赤ん坊のようで我ながら情けなくなりました。今になつて学生時代の不勉強を悔やんでおります。

さて、フランスにまいりましてアッというま

に半年が過ぎました。ここで外国生活七カ月目にに入った最近の心境を述べさせていただきまます。言葉の障害が大勢のフランス人との接触を妨げているということもありましょうが、妙なことにフランスへ来てこの国のことよりも、住んでいる時にはまったく考えもしなかつた「日本人とは、日本の国とは」、といったことが意識の中にクローズアップされます。今まで空気が霧のように感じていた国とか社会とかいつたものが、丁度客席の正面にすわって舞台を見上げるよう見えてくる、という言い方を解つて頂けるでしょうか。そしておくればせながら祖国日本の素晴らしさと精神文化の高さに気がつき、日本人であることに誇りをもち、胸を張つてこのフランスの田舎町で生活しているといふ訳です。

先進国といわれるE.C諸国の経済は停滞して久しく、一般国民の生活は実に質素なものであります。くらべて日本はわずか百年たらずの間に、しかも大きな戦争に負けるという経験をしながら、今日欧米をしのぐ経済大国といわれるようになりました。その要因はいろいろ指摘されていましたが、その大きなものの一つにこれをなしつけた日本人の国民性がいわれております。勤勉さ、強い精神力、ねばり強さ、慎み深さ等々、たしかにヨーロッパ人とくらべていちいちうなずけ

る点であります。この日本の成長経済に対する欧米の反応はきびしく、フランスでも日本から輸入品に対する関税引上問題がまだくすぶつています。

しかし派生する問題は別にして、短い期間に先進国の経済に追いつき追いこした日本人の力は世界に誇り得るものと思います。当然各国との経済摩擦には適切に対処していくなければならないことは、りませんが、問題としなければならないことは、この経済成長が日本人自身に大きな課題を投げかけていることに気がつかねばならない、といふことです。

それは国の経済が伸びたことで日本人が金持になり、国民の間に物質万能の考えが広まり出していることです。ぜいたくに慣れた心は、働く励みや他人をいたわるといった日本人本来の美点をスボイルし、一方何事も他人や国におぶさる怠惰の精神と繁栄の基礎である民主主義をはきちがえた利己主義を生んでおります。物が豊かになり、逆に心にまずしさが生じて来ています。ぬるま湯につかっている日本人は、モノやカネが人生で万能でないことに早く気づき、自國の文化に自信を持ち、愛国心を養い、そして視野は広く世界の中の日本であることを強く認識しなければならないと思います。自分の国のか文化や伝統を放棄して少しばかり金もうけをしたからといって、そんな根なし草は周囲の状況変化によつてすぐに行きとんでしまいます。人は、金持でも軽薄で信義に欠ける者とは本当の英知が成した経済の発展が逆に民族の崩壊につながるという皮肉な結果にならなければと、モ

ノと無目的にブラブラしている若者で溢れいる新宿や原宿を思い出しながら考えております。

現在のこの繁榮？　は物質的には今とくらべものにならないまずしい環境と戦前戦中の教育によつて育てられた世代の人達によつてなされたものであるという事に、我々若い者は心しなければなりません。日本は民主主義の経験が浅いだけでなく、ヨーロッパの国々と違ひ民族興亡の歴史的経験が少ないだけに、案じられます。フランスの経済は、以然として停滞しており、国民生活は大変なようですが、この国の人々は自國の文化と伝統に強いプライドと自信をもつており、いわゆるフランス的中華思想は健在です。日本は本来、このヨーロッパの大国民党フランスに負けない高い精神の文化を持つてゐる国です。ぬるま湯につかっている日本人は、モノやカネが人生で万能でないことに早く気づき、自國の文化に自信を持ち、愛国心を養い、そして視野は広く世界の中の日本であることを強く認識しなければならないと思います。自分の国のか文化や伝統を放棄して少しばかり金もうけをしたからといって、そんな根なし草は周囲の状況変化によつてすぐに行きとんでしまいます。人は、金持でも軽薄で信義に欠ける者とは本当のつき合いはしてくれません。国と国との関係も

同じことではないでしょうか。

大そう偉そうな熱をぶいてしまいました。私もついこの間までは自分の事しか考えたことがなく、社会とか国とかについて考えたこともありませんでした。この六ヶ月の外国生活は自分を少し大人してくれたようです。というよりこれまであまりにも不勉強で自覚に欠けていた、ということでしょう。

よく欧米に出た日本人は、極端にバタくさくなるか、あるいは国粹主義的思考に傾くとかいわれます。とすれば私は多分後者の方でしょう。しかし、せまい意味でいわれる、いわゆる国粹主義者におちいることなく、皆様にせっかく与えていただいたこの機会を生かし、本当の意味での国際感覚をいささかでも身につけて帰りたいと思っています。

（明柔）⁸³・上



現在は長崎でフランス菓子製造会社を経営

中国で企業展開

一九六六年度卒 佐々木充行

全日本出場の夢破れたが

私と柔道との出会いは、高校に入学と同時に近所の先輩から勧められ何となく入部したのが始まりでした。進学校でしたので部活にも制限があり大会では二回戦までの弱い柔道部でしたが、私が一年生の秋以降は常勝するようになり、三年生になると個人の部では全て優勝し四国大会でも優勝、インターハイにも出場しました。

この頃から大学で柔道がしたいという気持ちが強くなりました。たまたま新聞を見ると優勝力アップを手にした笑顔の朝田（紀明）先輩が載っているのを見て柔道をするなら明大と自分勝手に決め込んで入試に臨みました。

当時は徳島から東京までは二十二時間、今は考えられないような時間がかかりました。試験が終わった後、小川校舎の道場に足を運び、最初にお会いしたのが大村マネージャーでした。葉山先生を紹介され、「稽古をしてみなシヤイ」と言われ二人の部員と稽古をし、最後の人とした時に立っていられないくらいに畠に叩きつけられ、世の中にこんな強い人がいるのか

と驚きましたが、後に田中章雄先輩だったことを知りました。稽古が終わつた後、菅原主将に主将の紳士的な態度と合宿所の雰囲気がアンバランスに映りました。

昭和三十八（一九六三）年晴れて明大柔道部

に入部出来た喜びも束の間、慣れない合宿所生活、想像を絶した猛練習で田舎者の私にとっては大変なショックで、逃げ出したい気持ちに駆られました。しかし六月十五、十六日に行われた全日本学生大会に三連覇し、試合場で校歌と優勝の歌を全員で歌った時の感激は脳裏に焼きついています。三十九年も優勝し四連覇、鬼のように思えた関主将の満面の笑顔が印象的でした。夏休み中の自主練習中に左膝の靭帯断絶の大怪我をして練習を休んでいる時、神永（昭夫）先輩から筋トレを指導して頂いたり、卒業後も気軽に言葉をかけて戴き、ゴルフをしたり酒の場に呼んで戴き、神永先輩の人間性に接することが出来たことが私の宝となっています。四年生の時には山本裕洋主将の心遣いで、東京大会、全日本大会、団体選抜優勝大会の選手として出場できることで四年間の苦しい練習のこと忘れてしました。

卒業の年、全日本大会徳島県予選に出場し、前年の四国チャンピオンを破り優勝、四国大会

ではリーグ戦で明大出身ということでマークされ全て引き分けられ、全日本出場の夢が破れると同時に私の柔道人生は終焉となりました。

卒業後、一年半サラリーマン生活をして、その後父の経営する縫製業を継ぎましたが何か満たされるものもなく、昭和四十七年、現在の株アイリスを設立し下着の製造販売業を始めました。いろいろ苦難の道を歩みましたが明大柔道部の頭の良さと根性で乗り切り、女性下着販売では業界一になつた事もあります。

浦東開発進出第一号

さて中国の経済発展は多くの日本人が承知しているところですが、鄧小平氏の改革開放政策の象徴でもある上海浦東開発区進出第一号は我が社で、平成三（一九九二）年三月のことでした。それまでの中国を良く知る人達から見れば中国に投資することは狂気の沙汰としか思われていなかつたので「資本金二億二千万円はドブに捨てた」と揶揄されました。しかし八七（昭和六十二）年に上海で合作工場を設立したり、平成元（一九八九）年の天安門事件の直後、天津で委託生産工場を作つたりして中国の変化を肌で感じていた私にとつては大きなチャンスと捉えていました。平成四年一月に開業した時は田圃と畑の中に四階建ての我が社がポツンと建

つていて四キロ先からでも見ることが出来ました。この開発区の全面積は五百五十平方キロで東京都とほぼ同じですが、十余年たつた今では世界的な会社（GM、ジョンソン＆ジョンソン、ベル、日立、シャープ、オムロン、リコー等）の工場が建ち並んで、正に世界の工場といわれています。

平成九（一九九七）年頃から中国で生産された商品が大量に日本に輸入され、バブル崩壊で青息吐息の日本経済に追い打ちをかけ、デフレ経済を加速させた形になりましたが、今では中国の発展が日本の経済を支えるようになり、中國脅威論から共生論に変わつてきています。中国は鄧小平の指導力で論争の国を目覚めさせ、人々の意識を変えました。この十年中国で最も変わつたのは、北京や上海の風景ではなく、中国人の意識の変化ではなかつたでしようか。

日本はこの十年、不良債権、規制緩和、構造改革、財政再建、公共投資などの問題に対し論争だけに終始し、目に見えた結果を出せませんでした。一方中国は一人の指導者鄧小平の号令でグローバル化が急速に進み、論争の国から実践の国へと変貌、日本が論争の国の櫻を中国から引継ぎ、世界のグローバル化から取り残されそうになつています。中国は輸出で世界四位、

に入りました。日本人の多くは、中国は発展しているが共産党が支配する国、「本質的な部分では変わっていない」という認識ですが、高速道路は毎年四千キロ伸びて今現在は約三万キロ、因みに日本は全長七千キロ余りです。又、十年前まで中国で新車を見かけるのが珍しかつたのですが、今では毎年の車の販売台数は四百万台を超えて年で日本を追い越す勢いです。又、中国の携帯電話加入者は現在三億人弱、二〇〇八年には五億人前後に拡大する公算です。このまま成長すれば日中のGDPは二〇二〇年に並ぶと言われています。中国経済はマクロとミクロの変化を同時に捉えて判断していくかなければ大きな間違いを犯す危険性があります。

最後に我が社の中国企業の紹介をします。

◎上海愛麗絲製衣有限公司

（資本金二・二億円）

従業員 五百六十人、

売上十五億円（内中国国内販売四億円）

◎上海暖恋紡織品有限公司

（資本金九千七百万円）

国内販売用防寒肌着製造

◎上海振朗交通器材租賃有限公司

（レンタカー、車のリース）

車の保有台数二百六十台

◎西安出租汽車有限公司（タクシー）



経営する会社の前に立つ筆者

我が社は本格的に中国に進出して十三年目を迎えてます。成功とは言えませんが、世界の一流企業がひしめく中国で頑張っています。還暦も過ぎ、昔のような体力はなくなりましたが、明大柔道部魂は今でも色褪せることなく身体の中に染み込んでいますので、これからも日中友好、発展の為努力してまいります。

バラが咲いた

一九八二年度卒 藤本一博

私は昭和五十八（一九八三）年に明治大学を卒業し、同年に熊本県警に奉職。警察官として、現役柔道選手として郷里で過ごしながら二十六歳で結婚生活をスタートさせました。その後あるキッカケから県警を退職し、マレーシアに移り住むこととなり、現在では熊本で花の輸入販売会社を経営しております。

花に関する仕事に興味を持ったのも、偶然手にした新聞で「ニューヨークで輸入バラの店が大盛況」との記事を目にして興味を覚えたとい

◎西安畜牧有限公司（家畜の薬品製造）
他不動産会社など二社。総従業員数千人
我が社の特徴は、現地の経営は全て中国人に任せている点です。私は中国マーケットをねらうなら、いかに中国人と信頼関係を結ぶかが大きなポイントと考えています。多くの日本人は五十六民族、日本の二十六倍の国土、社会システム、風俗・習慣の違う国でビジネスをするには、やはり中国人でないと無理です。欧米企業は、その点巧く中国人を使っています。

柔道が盛んな熊本で生まれ育った私は子供の頃から素晴らしい先生方との縁を得て、鎮西高校時代には船山先生からご指導を頂きインターハイ個人チャンピオンとなることが出来ました。明大柔道部では姿師範をはじめとする多くの先生方のご指導を得たわけですが、ジュニア

花に関する仕事に興味を持ったのも、偶然手にした新聞で「ニューヨークで輸入バラの店が大盛況」との記事を目にして興味を覚えたという単純な動機です。そしてマレーシアへ渡る決心についても、偶然知り合った人物のアドバイスを鵜呑みにしただけの甚だ無謀なものでした。お世話になつた先生方や家族を口説き落として女房とともに渡つたマレーシアでの生活は予想以上に惨憺たるものでした。アドバイスを

チャンピオンのタイトルを手にした以外、団体戦では思うような結果を得ることはできず悔いの残る戦績でした。

くれたはずの人物はビジネスパートナーとして

信頼の置けない者であることが判明し、私が目指した花の仕事には全く手が付けられないばかりか、移り住んで三ヶ月後には県警の退職金や僅かな貯金を取り崩しながらの生活となつてしまいました。

そうした生活の中でもやはり柔道が私を助けてくれました。小学校四年生以来柔道着を手放したことになかった私は、やはり柔道が忘れられずに、「一番有名で大きな道場（クラブ）はどこだ？」と聞きまわり、何の紹介もなしに半ば道場破りのようにして、ある道場に出向きました。なかなか立派な道場で色々な人種が練習に励んでいましたが、現役を引退して間もない私は「海外では稽古においても徹底して強さをアピールしなければ信頼を得られない」との諸先輩方の言葉を思い出し、紳士面を捨てて本気で彼らと稽古をしました。

そんな私に対しても当然のことながら彼らは敵意剥き出しで掛かつてきましたが、練習が終わる頃には皆私のことを「先生」と呼ぶようになります。拙い英語で聞いたところによれば、偶然にもその日はマレーシア・ナショナルチームの合同練習であつたとのことで、その後請われるままにボランティアコーチとなり、柔道関係者

との親睦が深まって行きました。

しかし、肝心の仕事は全くものにならずマレーシアでの生活が半年もしないうちに、恥ずかしながら新聞代にもこと欠き、滞納した家賃の支払いを巡つて大家とは毎月喧嘩状態でした。不安に押し潰されそうになる女房を「安定した収入を得られるようになるまで、がんばろう」と励ましながら、「日本での安定した生活を捨てたのは俺なんだ」という事実にやつと氣付いた自分自身に愕然とする始末でした。

そうした私の生活を知つてか知らずか、柔道協会の役員から有償（月十五万円）の正式コートになつてくれとの話が舞い込みました。喉から手が出るほどお金が欲しかった私にとっては本当にありがたい話でした。柔道とは別の夢を追つてマレーシアまで来たのですが、「結局、好きな柔道のコーチとなりました」でも良いじやないか、と自分を納得させようとしました。しかし、ここでこの話を受けければ新たな志を完全に諦めてしまうことになると思い至り、断腸の思いでコーチ就任の誘いを断つたのです。

このままでは日本に帰れないと決心した私はこれまでビジネスパートナーとしてきた人物と決別し、自分一人だけで花に関するビジネスを開拓することを決意したのです。思えば、この意味でのスタートでありました。

私は以前に花市場を見学した際、出品していた農園主と戯れ程度に記念撮影した写真だけを手にして市街地から二百五十km彼方の農園地方を訪ねました。「この人を知りませんか？（Do you know him?）」だけを連発しながら歩き、遂に目指す農園にたどり着くことができました。「とにかく花の仕事をしたいのだ」、しかかる私に対し、その農園主は真剣に色々な話をしてくれました。そして、他の多くの農園にも案内してくれ、まるで古い友人のように私を紹介してくれたのです。当時はまだ花に関する知識が乏しい私には、彼の熱心な説明も正直意味不明のことがほとんどでしたが、沢山の農園のなかで彼の農園の花が一番綺麗であることだけは強く印象に残りました。

是非とも彼とともに花の仕事がしたいと思いましたが、収入のあてもなく貯金は使い果たし、もう売れる家具も残つていらない状態では如何ともし難かったのが現実でした。

マレーシアに来て一年目の夜に、女房とともに帰国する航空券だけを手にして少ない荷物をまとめてことなりました。夜逃げ同然の帰国準備のなかで、何のお土産も買うことも出来ず手ぶらで帰るのも悔しいとだけの思いを、か

の農園主に電話で話したのです。帰国前夜の九時頃に一方的に電話を掛けた私の、「明日帰国するのだが、バラのサンプルでもよいからほしかった」との話を聞いた彼は、何とその深夜に二百五十km離れた農園からバラの花束サンプルを持ってきてくれたのでした。

深夜三時過ぎに鳴つた呼び鈴にドアを開けると、暗闇の中にバラの花束を抱えた彼が立つていました。感動の余り、正直言葉が見つかりませんでした。

私は、この花束だけは、との思いで何とかそのバラを日本に持ち帰り福岡花市場に持ち込みました。これも体当たりといえは聞こえは良いですが、なかば強引に市場の部長さんに見てもらつたのです。奇跡のようですが、幸いにも「入れてみろ」の一言をおっしゃつてくれた部長さんは今でも私の大恩人です。

その後も決して順調に事が進んだわけではありません。今度は女房を熊本に残して単身マレーシアに渡りました。それからの半年間が精神的に一番辛い時期となりましたが、このときも柔道での経験が私を支えてくれました。大学一年時に膝の怪我で約一年間稽古が出来ずに精神的に苦しんだときには胃潰瘍になりましたが、マレーシアでは胃は痛くならなかつた。まだまだ俺は大丈夫だ。何のこれしき、と思いました。

怪我もまた修行なり、です。

三千本、三十ケースのバラを福岡市場に入れることからスタートし、数万円で手に入れた中

古の軽自動車だけで一人きりで始めた私の商売も、多くの方の支えによつて今では五名の社員

を雇うところまで来ることができました。そしてバラの花束を届けてくれた農園主は今では私

の大変なビジネスパートナーであり、運命共同

体と言えるほど深い付き合いが継続しています。

私が今のところ何とか事業を維持できている最大の要因は何かと問われれば、やはり柔道修行で培つた根性です。無謀であつたかもしれないがチャレンジ精神を持ち続けたこと、強引だったかもしれないが何時も相手の胸に飛び込んで行つたこと、辛いときには何處でも必ず柔道を通した仲間が支えてくれたこと、どれを取つても駿河台の道場で得たものばかりです。

八月廿八日。晴。朝食後デツキチエヤの借用を申込んで甲板に上り、數名の外人相手に、手真似、足真似宜しく、英語會話の練習をした。何となくジレツたいので、ツクヅク中學時代に英語を勉強して置かなかつたのを悔いた。



昭和六年度秋

明治大學 柔道部 渡米日記(抄)

横濱出帆より桑港出帆迄
自八月廿七日至十月十五日

T・Y

八月廿七日、愈々今日は出發だ。吾等の柱石、

北島主將が同行不能の爲め一抹の淋しさはあるも、流石に一同は始めての渡米の事とて胸の躍動禁じ難きものがあつたらしい。日頃聞き慣れた「白雲棚びく……」の校歌も、今日は、東京驛頭と横濱埠頭で歌はれた際には、特別の感慨なきを得なかつた。正三時、大洋丸は出帆した。

八月廿九日。雨。朝雨が酷々降り、おまけに、海も多少荒れ氣味なので、午前中は船室に閉籠もつて雑談に時を移した。午後晴れた合間に

を利用して、D甲板で上船後始めての練習をした。豊が十枚しか借りられなかつたので只

だ、身體の調子を慣らす位なものであつた。澤山の外人も見物に来て英語部の兩君に質問を發してゐた。

八月三十日。晴。午後練習をした。今日は身體の調子も直つたので可成り激しい練習も出來た。拳闘家のロメオ君が弟子入りをして來たので十分間程技のコーチをしてから、山田君が柔道による精神訓練の重要さを説いてやつてゐた。

九月二日。晴。午後二等Bの船室全部を占領してゐる、アプトンクロース東洋見學團の招きに應じ、型の實演をした。牧野監督が山田君の通譯の下に柔道の説明をした際には、ノートを出して書留める者さへあつた。

九月三日。晴。午後練習をした。前記ロメオの外に、アプトンクロース團のリン君、外二名の弟子入りがあつたので見物人も多く相當賑やかであった。ロメオ君、リン君に限らず、どうも外人は腕と脚の力に比して腰力が足りない様だといふ事に氣が付いたので、渡米後レスリング試合をする際にこの點を利用しよ

うと考へた。

九月五日。朝六時頃不圖眼が醒めたので上甲板に上つて見て、思はずアツ!と叫んだ。多年憧れてゐたホノルルが眼前に未だ明やらぬ曉の煙霧に包まれてその容姿を平和と美とのシムボルを吾等に示してゐるでは無いか。

ホノルル上陸者がその過半数を占むる三等船の方では、ザワザワといふザワメキの聲が喧しい位に聞えてゐる。けれども無理ならぬ事

だ。仲には三年、五年、或は十年といふ長年

月の間故郷ホノルルを離れて、異國で凡ゆる困苦と鬪ひ兎も角も郷里に歸り得た、と云ふ人達さへあるのだもの。然し、斯る喜べる人

の中にも、數時間後には僅かな書類の不備を理由として監獄にも等しき移民収容所に留置せらる、同胞の在る事を思ふ時、今更の如く、

人道上、國際正義の上に立ち、彼の排日移民法の不法を叫ばざるを得なかつた。

船は八時頃、静々と第七號岸壁に入つて行つた。

上陸後早速日布時事、布哇報知の二大邦人新聞社を訪問して挨拶を爲し、歸途立寄つた際の御援助を御願ひした。往路、自動車上より見た、多數の黒人——殊に、椰子の葉影に、レイを編んでゐる黒人——達は吾々に別天地

に來たものだ!との感を深からしめた。

六時に出帆の豫定であつた船は七時になつても未だ揚錨出來なかつた。土曜日の爲めクーリー達が働かないので荷積に手間取つた爲めだ相だ。それにも思ふのは、日本に於ける汽車、汽船の時間正しき事である。流石、世界第一を誇る米人も日本に於ける汽車、汽船の發着時間の正確なには最大級の讚辭を惜しまぬ位であるから、この點丈けは吾々も少し鼻を高くして好いと思ふ。

船は漸く七時半過ぎに揚錨した。横濱と違つて、見送人を餘り岸壁に來させないので、淋しい出帆であつた。

今日から二等船室も空いたのが澤山出來たので、これ迄一室に四人も起臥してゐた吾々も、愈々一室規定の二人づゝといふ餘裕ある生活が出来る様になつた。

九月六日。晴。午後練習をした。一同身體の調子が頗る好い。

九月八日。晴。ホノルルを出てから今日の正午迄に九五九浬來た。もう後一一四一浬で目的地桑港に着く筈だ。流石に一日くと涼しさが増して來て正午の温度は七十三度、横濱出帆當時の九十三度に比すれば二十度も下つて來た譯だ。

午後、一等船客始め、船の事務員の方々に一等甲板で正式の實演をお目に掛けた。牧野政信監督の柔道に就いての講演（山田君通譯）後、池田、河野兩四段の投げの型、小田五段、

富田四段の極めの型、梶田、河野兩四段の護身の型が牧野監督、山田君の兩人の説明の下に鮮かに行はれ、その合間に、亂取の實演も爲し、非常に盛會であつた。

九月九日。晴。晴天ではあつたが、風が烈しいので、可成り波は高かつた。その爲めでもあるまいが、朝食の際食堂に出かけて行つたのは一行中僅か三名であつた。夕食後ダンスがあつた。最後迄踊らぬと頑張つてゐた牧野監督、梶田四段、山田君の三人が何時とは無しに踊りに加はつたので結局一行中踊らぬ者は無い様になつた。

九月十日。晴。後雨。寒さが一入身に滲む様になつた。

夕食は恒例のキヤプテンディナーであつた。大いに飲み？大いに歌ひ、又大いに食べた。大洋の眞中で、鐵板一枚下は、死の地獄とも云ふべき處で、若き日の誇りを一身に集めて、愛する母校の「白雲棚びく……」を歌つた時の感激は凡らく一同の永久に忘れる事の出来ない貴い経験であらふ。米國ではどん

な苦勞が待つてゐるかも知れない、然し私達は若さの與へる内身の衝動にかられて前へく進んで行つて、そんな苦しみ、辛さの事は考へないので。

九月十一日。晴。晝食後、桑港が見えた。本當に美しい、奇麗な港だ。丸で浮島の様だ。幾多の丘が町中にある。寺院の塔らしきものも

見える。二、三十階の高層が聳えてゐる。美しい。然し何となく、ホノルルを始めて見た時は程の感激が湧かない。

それでも長年憧れた、アメリカの土を踏み、少年時代よりの記憶に新なる、ワシントン、リンカーン等と血を同じうする人達に會へるのだ、といふ少年の様な喜びを持つた吾々を乗せて船は金門灣に徐々に入つて行つた。旅券の検査、旅具の検査も簡単に済んで、出迎への兒野さんと共に或る大きな雑誌記者の寫眞に收まり、加州ホテルに落付いたのは六時過ぎであつた。

九月十二日。晴。朝、日米、新世界、兩新聞社を訪問して挨拶を終へた。午後オーケランドに行つてシールズ対オーケランドの野球試合を見た。

九月十三日。晴。午後桑港柔道場で練習をした。世界ライトヘザイ級のチャム・ビオンレスラーたるサンテル氏が来て熱心にレスリングのコーチをして呉れた。吾々は大いに學ぶ所があつた。然し流石のサンテルも柔道衣を付けた際には、富田君に締付けられて、參つた様だつた。

九月十四日。晴。午後四時、英語部の山田、大西二君が金門學園で講演をしたので、一同が聞きに出かけた。大西君は先づ日本語で五位簡単に挨拶を爲し、次に山田君が英語で二十分程講演をした。時々ジョークを入れて皆を笑はしてゐたが、吾々には英語の話しさは餘り解らなかつた。生徒一同が非常に喜んで山田君の講演後質問を爲したが、その中に、「日本に於ける危険思想の將來如何」、「日本人男子中渡米者多きに、女子は殆んど皆無なるの理由は如何」といふのが一同の興味を引いた。夜アーサンスクラブ（オーケランド）で一千名近くの會員の前で實演をした。彼等の中、大部分は柔道を見るのが始めてなので、皆舌を巻いて感心してゐた。

九月十五日。晴。午前十一時から十二時迄、アラメダ、ハイスクールで實演を爲し、正午に

は、アラメダのロータリークラブの歓迎會に

臨んだ、夜基督教青年會のレスラーとの試合篠
件に付き激論數刻の後、愈々来る十九日夜、
試合をする事に決定した。

九月十六日。晴。午前中、或る幼稚園の運動場
に行つて、キノグラム社技師リング氏の指揮
の下に柔道の諸型を活動寫眞とつて貰つ
た。夜、加州大學に行つて舊體育館内で實演
をした。大きなホールが満員の盛況で、同大
學のレスラーの飛入りもあり非常に愉快であ
つた。

九月十八日。晴。午前中に、クロニクル、エグ
ザミナー兩紙の體育班を訪問して、明日の大
會への紙上の援助を御願ひした。今日は一日
中休養を取つて明日の大會に備へる事にし
た。午後マーケット街を歩いてみると、大き
な聲で「號外！號外！日支戰爭開始！」の叫
びが聞えたので、號外を手にして見ると成程、
大きな活字で「日本、支那と開戦す」と云ふ
見出しの下に、例の奉天軍の満鐵線爆破問題
を誇大に、幾分支那に有利に報告してあつた。
眞相は兎も角として、當地のクロニクル、エ
グザミナー兩紙とも幾分排日傾向があるので、斯様な問題が起きると可成り煽動的な文

字を用ひて幾分日本に不利に報告するので、

祖國日本を離れて最近の事情に暗い日本人一
世の諸氏は可成り頭を悩まされるとの事であ
る。これを思ふに付けても、一刻も早く、國
民の爲めの、國民による外交即ち國民外交實
現の急務なる事に想到せざるを得ない。

九月十九日。晴。今日は愈々大會の當日である。

夕食後愈々今夜の戰場、ドリームランド會館
に向ふ。定刻七時半になると豫ての豫告効を
奏してか、約一千五百名の觀衆が會場に押か
けて、プログラムを手にして下馬評を盛に飛
ばしてゐる。大部分邦人なるも、外人も少な
からず居る。以下は桑港新世界紙の當夜の大
會に關する記事の抜萃である。

「先づ主催者側代表黒江四段開會の挨拶をな
し次いで明大側大西氏の紹介で、牧野六段
(邦語)、山田忠義(英語)の兩氏の柔道につ
いての説明ありそれより柔道の型の紹介が左
の選手に依つて鮮かに行はれた。

護身の型 梶田四段 河野四段
投の型 池田四段 河野四段
極の型 小田五段 富田四段

次いで青木二段河西初段の桑港柔道々場少年
相手の稽古があり、それより明大の監督牧野
六段が青年連に稽古をつけ流石高段者として

の鮮かな技倣を見せ觀衆を満足させた。

當夜の最も呼物となつてゐたレスリング對
柔道の試合は米人側が柔道に恐れをなして急
に三名の選手が出席を断つたので主催者側は
面喰ひ補缺の出場について奔走たしるも「レ
スリングのみならやるが柔道は厭だと逃げる
ので、柔道紹介に來た明大選手がレスリング
のみやるのは不本意とあつて止むなく残りの
二米人を相手に試合する事となつたが、その
結果は左の如き成績で柔道は二勝、レスリン
グは一勝一敗となつた。

○池田四段 ×ヒール

○富田四段 ×ボウスカウス

×富田四段 ○ボウスカウス

柔道の試合は牧野六段審判の下に行はれ池
田、富田四段苦も無く締めつけ一本宛とり勝
ちとなつたが、レスリングでは、ガーデンフ
ィールド氏審判の下に行はれ、池田四段は巧
く押へつけて勝つたが、富田四段は強敵ボウ
スカウスの爲めに肩をマツトにつけられ惜敗し
た云々」

實際池田君の勝は堂々たるものであつた。
審判のガーデンフィールド氏は盛に「池田君
を俺に一ヶ年貸して呉れ給へ。頼むから、俺

が六ヶ月仕込んだらモウ確實に太平洋岸にアマチュアレスリング界のミッドル級チャムピオンにして見せるから」と山田君に話した位であつた。富田君も惜敗はしたものゝ、何分相手のボウスカスは加北第一の名レスラーであり然かも百六十封度の富田君よりは三十封度も多い百九十封度といふ大男である爲、重量が物をいふこの種の試合に於て、かる大敵に例へ一勝一敗とは云へ、柔道では締め付けて氣絶せしめ、レスリングでも、非常に苦戦せしめたといふ事は、觀衆一同の讃美を浴びるに十分であつた。兎も角もこの大會により、當地の一世諸君の武道に對する熱心さと、白人レスラーの柔道に對する恐怖と、吾等のレスリング試合に付いての經驗と自信、といふ三つの大きな收穫を久し振りでノンビリした氣持になつて歸宿した。

九月二十日。晴。午後二時頃スタツクトンの小村氏邸に着きお壽司とお雜煮の御馳走になる。午後野球見物後、ルーズヴュルトホテルに止宿した。これは明大の古屋先輩等に依つて經營されてゐるもので、吾々一行の爲めに特別上等の室を提供されたのであつた。

九月廿一日。晴。朝早くスタツクトンを出發し、夜八時から明日ホールで大和體育會及四新聞社後援の下に柔道大會を開催した。以下スター

ツクトン、タイムズからの抜萃である。「稀有の盛況を示し、入場者約七百と云ふ有様であつた。小室司會して先づ開會を宣し、牧野監督を通じて選手一同を紹介す。

先づ講演部の大西藤明氏英語の挨拶あり、牧野監督の挨拶は山田忠義英語にて通譯、牧野氏は柔道の一般に就て説明した。

次で愈々選手達の柔道の型を牧野監督説明山田氏英譯の下に示し、池田、小田、富田、梶田、河野の五選手並に牧野監督交々マットに現れて勇壯な模範試合も行はれて十時過ぎ散會す。何れも英語を以つて説明したので白人は勿論第二世諸君も柔道と云ふもの、眞價を會得させるに充分なものであり、非常に益する所多かつた。」

散會後體育會々長秋本氏の招宴に臨んだ。愉快な集りであつた。

當地はヒリツ・ピン人、黒人が多い爲めか桑港の日本人街とは比較にならぬ汚さであつたが、聞けば、當地に於ける日、比兩國人の關係は丁度、雇主對雇傭人のそれであり、従つて比島人につては吾等日本人は旦那様々なのであるといふ。(中略)

園ヨセミテに赴いた。夜の八時頃フレスノのイム・ピリアル・ホテルに到着した。

九月廿二日。晴。吾等の今回の旅行實現に非常な御援助を戴いた明大の松本瀧藏先生が當地のハイスクール在學時代、現フレスノ市長が校長として生徒の信望を一身に集めて居られ、松本氏は數ある生徒中、その校長の愛弟子として、御恩召目出度かつたとの事。月日は流れて十年一昔後の今日に於ては松本氏は明大の新進講師として將來を囁望さる、身となり、氏の恩師レイメル校長は今やフレスノ名市長として市民より親の如く慕はる、位置につかれたが、兩氏の交通は何時迄も絶えず會ひたい、語り度い、の情薄からずとの事である。それ故に吾々がフレスノ來訪に際しても先きに提出したのは松本氏よりの市長宛ての紹介状であつた。それがあらぬか、兎も角も、今日は素晴らしい歓待に遭つた。

日本には少ない飛行機が宛も自轉車の如く容易に且數多く操縱されてゐるのを見る時、誰か機械文明の恩恵に心を打たれざるものがあらぶか。確かに、ひとりよがりの御老人達に依つて云はれる如く、物質文明、機械文明は文明の孤城に閉籠もつて居ても好い時はトツ

クの昔に過ぎたのだ。日本の弱みは、精神文明の美點を強調しつゝ、精神、物質兩文明の孰れにも徹せざる所にあるのだ。見よ物質文明、機械文明に徹したる米國の強みを、米國人の幸福を！

午後一時半頃ホテルフレスノの大食堂に於ける市長の歓迎會に臨んだ後、エルクスクラブに至つて、署長始め約百名の警官に柔道の型を見せた。飛入り歓迎の聲に應じて二巡査が取組んで挑戦したが、丸つきり子供扱ひにして、殊に二百三十封度もある査公を自由自在に投げ飛ばし大喝采を拍した。（中略）

九月廿三日、晴、朝十時にフレスノハイスクールに於て實演をした。講堂が大きいので説明

はマイクロフォンを通じて爲した程であつた。午後のエヂソン、テクニカル、ハイスクールに於ける實演並に夜のライアン會館に於ける大會の様子等に就き「日米紙」及び「新世界紙」からの抜粋を次に掲げよう。

……カーテンが上ると千二百餘の男女學生が總起立して米國々旗へサリュートを捧げる。その嚴肅な布市ハイ講堂の光景は壇上にならぶ明大選手諸君の眉宇に緊張味をみなぎらした、ゲーンス校長が歡迎と紹介の辭を述べる、山田氏が立つて一場の柔道講演を試

むる、その中にゴールデンステート、パシイ

フィック・オーシヨン、アメリカンスピリット等を語彙とする洗練せる美辭麗句がマイクロフォンに擴聲されて、こゝろよく學生達の耳に流れた、急霰の様な拍手のうちに水際につた鮮やかとも、あざやかな數番の型や亂取りの演技が示された。滿場の視線はこれに凝集されて日本武道の精華に賛嘆の聲が放たれたのであつた。明治大學を祝福する勇ましいエールの叫びが講堂を揺るがして正午前に最も成功せる四十分間の公演會が閉ぢられた。

午後はエヂソンハイの懇請に應じ、茲でも數百の學生に柔道の洗禮を受けたのであつた。

昨日以來中加各地方から選手一行は引つ張り廻にされてゐる、その一つは排日制札を今に撤去さぬといふボーダビルからの招待であつたが七十哩の遠隔地、日割に支障を生ずる

九月廿五日。曇時々小雨。朝五時に起きて北島とあつて残念乍ら謝絶したらしい。夜八時より市内ライアン公堂に於ける柔道大會が開かれたが日白人の來會約千名に近く、河合武徳會長開會と歡迎の辭を述べ、牧野監督（通譯山田氏）の柔道講演に引續き左の選手により型の紹介があつた。

投裏の型 池田四段 梶田四段

護身の型 梶田四段 河野四段

投の型 小田五段 富田四段
河野四段

九月廿六日。晴。吾等一行の歡迎を兼ねた、第四回南加聯合柔道大會は愈々今日から二日間開催される事となつた。參加道場十五ヶ所、

出場有段者のみにても明大以外に二十名入場者約二千といふ盛況で、殊に附添父兄の熱心さは日本でも一寸見られぬ程であつた。試合が長びいて夜十時半過ぎに第一日の大會を閉ぢて明日は朝十時から始められる事になつた。相變らず當方選手の方は好評であつた。

九月廿七日。晴。今日はホリウッド俳優連が見物に來ると云ふので會場は早朝から滿員の盛況であつた。四時頃或撮影所からトーキーを撮りに來たので型を少し許り説明附きで撮つて貰つた。朝早くから始めた會も終に夕刻に至るも準決勝が済まない位でこの具合では何時閉會になるか解らぬと思はれる位であつた。吾々の五人抜き勝負は全部問題無く當方選手の勝ちであつたが、特に、今日の梶川四段の四人抜（二段一人、初段一人）は四分半位で片附いたので觀衆一同は舌を卷いてゐた。八時頃ホリウッドの名優連が男女六組許り來場したが孰れも吾々には名の判らぬ迷優許りであつた。

終に夜半過ぎの一時半になつてから漸く全部の優勝戦が終つた、それ迄は試合に熱中して氣が付かなかつたが不圖見廻すと未だ三百名許りの父兄が熱心に應援の爲め残つて居られたのを見た時、その熱と意氣の前には思はず

頭を垂れた。聞けば各道場の教師達は、父兄の熱心と自分の弟子の意氣に動かされて、身體の調子の悪しき時でも奮發せざるを得ないとの事。こゝにも在米日本人一世の二世の教育、訓練に對する涙ぐましい努力を見せられた。

九月廿八日。晴。午前中自由行動。午後二時南加大學に至り實演を爲す。觀衆が非常に少なかつたのには失望した。

十月一日。晴時々曇。今日は朝早くロスアンゼルスを出發して、ガーダループに行く都合であつたが、一寸した行違の爲め自動車が都合出来ず、止むなく見送りに來て戴いたモネタ道場師範山の内さんの手と自動車とを借りて、遅くなつてから出發した。それでも相當スピードを出したので、午後四時頃ガーダループに着く事が出來た。八時から實演を始めた。青年會々場で演つたが、滿員の盛況で、殊に白人が半数以上を占め頗る盛會であつた。矢張り型の實演に恐れを爲しか、飛入り外人が一人も無かつた。

十月五日。晴。モントレーに行つた。こゝは古い町で、スパニッシュタウンの匂の濃厚な處である。十時十分から五十分間に亘り、ユニオン、ハイに於て實演を爲し、午後はボイント、ロバスに見物に出掛けた。夕刻佛教會館で實演を開いた。相變らず熱心な觀衆で會場が一杯であつた。（中略）

十月六日。曇。朝モントレー發、ワツソンヴィルに至る。十二時半よりハイスクールにて實演を爲す。最後に亂取をした所非常に好評で拍手が止まず、爲めに校長さん自ら壇上に上つて静められたが熱した學生は未だ聞かず、

譯附きで、型の實演を爲し、後で、河野、池田の兩四段が、夫々百六十斤と、二百五十斤のレスラー相手に試合を爲し、柔道、レスリング何れの試合に於ても、體重の遙かに重い相手を打負かして了つたので、重量が違へば引分けさへも無理だと云つてゐた外人連は開いた口が閉がらぬ様だつた。

十月四日。晴。夜、外人體育會館で大會が開かれた。常の如く牧野監督の説明、山田君の通

譯附きで、型の實演を爲し、後で、河野、池田の兩四段が、夫々百六十斤と、二百五十斤のレスラー相手に試合を爲し、柔道、レスリング何れの試合に於ても、體重の遙かに重い相手を打負かして了つたので、重量が違へば引分けさへも無理だと云つてゐた外人連は開いた口が閉がらぬ様だつた。

飛ばす際に必要なもの位にしか思つてゐない者が多數在つたので、精神教育の方面を説いて聞かせた。

十月八日。晴。朝ワツソンヴィル發、サンノーベに赴く。十一時十分よりステイトカレッヂに於て型の實演をした。此地は明大野球部三浦君の郷里なのでカレッヂの學生中にも同君の友人が澤山居て親しく感じられた。正午に、そのカレッヂのコスマポリタンクラブの御馳走になり、山田君が國際問題に付いて講演した。午後はサンタクララ大學に行つて又實演をした。こゝはミッションニユヴァーサティンでの生徒も御上品な男學生許りで、拍手の寛大なには驚かされた。夜佛教會館で實演を爲したる後男女佛教青年會有志の茶話會に出席した。當地は何故か三十代以上の日本人の方々は顔を見せず、私達をお世話して下さつたのは皆二十代の人達許りであつた。

十月九日。晴。サンノーベ、オークランドに至る。途中、サンタクララ、ハイに於て實演をした。丁度晝食時間だつたので、女生徒達は三々、五々打連れて校庭に出て、黃い緑草の上に腰を下したり、横臥したりしてサンドウイッチを食べてゐたが、吾々の通るのを見

ると、遠くから「ハロー」と手を上げて、聲を掛け呉れたり等した。そんな光景に接する、吾々は男女間の自由なる交際と、伸び行く者の自由を思はざるを得なかつた。

十月十日。晴。正午頃雄辯部の三木（武夫）氏來訪し、ハワイに於ける各等歡迎準備完了の旨を知る。（中略）

夜、佛青ホールで型の實演並に、對オーケランド基督青年會の柔道並にレスリング試合を行つた。何分相手は桑港レスリング界の霸王の事とて今度は猛烈なる柔道の型なんかに恐れを抱かず堂々と挑戦して來た、觀衆千に近く、空然の盛況で、加大ストン教授の一體を始め、桑港オリンピック俱樂部の御歴々が加はり婦人連も多數有つた。

プログラムは、司會者 矢幡日會長

一、挨拶 司會者

二、選手紹介 一行支配人兒野彦太郎

三、柔道とは何ぞや 牧野監督

四、右英譯 山田忠義

五、記念撮影

六、明大選手及灣東道場員亂取稽古

七、明大選手對五府基督青年會柔道試合

八、明大對五府基督青年會レスリング試合

右の中柔道試合は全部二三分間の中に首絞め

或は關節取り（投げは無効の爲め）で勝つて了ひ、レスリングは、河野四段がチヨーダンに六分間で兩肩付けで勝ち、池田四段でモーヤーに一分間で同じく兩肩付けで勝つた。が、他の北島小田の兩五段及び梶田四段は、生憎のが災して、引分けに終り乍ら歩合負けをして了つたのは残念であつた。富田四段は十五斤丈け自分より重いアーガンソンと接戦をして六分間で兩者共肩付けであつたが先方の方が少し早かつた爲め、先手勝にて先方に勝を譲つた。然し、兎も角も重量のハンディキアップに苦しみ乍らも、柔道では苦も無く全勝し、レスリングも實際に於ては二勝四引分けにも等しき好成績を、然かも桑灣レスリング界の霸王、オーケランドキリスト教青年會に對して、擧げ得た事は實に大なる收穫と云ひ得る。

十月十一日。オーケランド發、サクランメントに至る。夜、昭和ホールで型の實演及びレスリングの試合をした。（中略）夜會のレスリングの相手はハーモン及びハーレンの二君で何れも五年乃至七年の長きに亘りレスリングを爲し、一時はそれに依つて生活してゐた事もある程な猛者である。當方は重量の關係上、梶

田、池田の兩四段を出す事にした柔道の試合では難無く勝ち、レスリングでも梶田君が二分間でハーモンに勝ち、池田君が四分間でハーレに勝つた。吾等の先輩藤田五段がワザ／＼王府から同行して来て、色々とレスリングのコーチをして下さった。

十月十五日。晴。愈々出發だ。十時半に加州ホテルの人々及び藤田先輩に別れを告げて埠頭に至り、十一時龍田丸に上船、見送りに来て頂いた兒野さん、京野さん始め、桑港柔道クラブの方々と御別れの挨拶を交はして愈々正午は「ボ」一と云ふ汽笛と共にになつかしい米國を去つた。

戦時 下のアメリカ遠征

一九三六年度卒 葉山三郎

當時支那事変がボッ発した年で大動員があり、私も召集を受けたのですが胸骨の骨折でギブスをはめていたので解除され直ちに渡米する



最初に学生チームをつくつてアメリカへ行つたのは早稲田大学柔道部で、笠原さんが主将の時だったと思います。その後昭和五（一九三〇）年牧野さんが監督で明治大学柔道部学生八名くらいでアメリカ遠征をされました。私は昭和十一年で、明治大学の一一行をつれていったのです。十一名のメンバーで、五段五名、四段五名と通訳が一名いました。上陸したのはサンフランシスコで、フレスノ、サクラメント、ガタロップ、ロスアンゼルスと六コースをとり、帰りにハワイで一週間滞在しました。二回目は二年で、これは個人で行つたのですが、先年学生と遠征した時、ロスアンゼルスで知り合つたミセス・ローガン、ミス・プリチエットという二婦人の親日家がおられ柔道に非常な興味を持つて日本へ来られ、嘉納先生に会われて柔道理論を聞かされ心酔されたわけですね。早速だからロスアンゼルスへ来て指導して欲しいといふことで私の名前を出され、嘉納先生もよからうと云うところで渡米したのです。渡米までに二婦人は京都の福島清三郎さんの道場近くに家を借りて柔道の形や乱取りを練習しております。

當時支那事変がボッ発した年で大動員があり、私も召集を受けたのですが胸骨の骨折でギブスをはめていたので解除され直ちに渡米することになつたのです。二婦人の柔、投、固、極等の形はなかなか上手でした。嘉納先生はオリンピック大会東京招致の問題でヨーロッパを廻つてロスアンゼルスに来られ、二婦人と将来のことについて話し合われる約束のようでした。が、シャトルから急用で帰国の途中不幸にもご逝去になつたのです。米国人を教えるのに苦労しました。好奇心にかられてくるのですが続かないのです。それで興味を持たせなくてはならないと思って、柔道の形や、当て身のようないから空手の形までやらせて、だんだん乱取りというところまで持つて行つたものでした。結果局二十五名位道場へ来るようになり、そのうち五名は女子でした。私自身は生活のため日本人道場に週五日ばかり行つて、白人の方は週二日教えることにしていました。当時はもう日米国交関係が険悪で、独りで白人の映画館へは行けなかつたものです。そのうち米国政府からロスアンゼルスにいた映画俳優鈴木伝明、プロボクサー玄、歌手の松山氏と私に退去命令が出され、鈴木伝明氏はメキシコへ逃げ、松山氏はヘレンケラーの札使としてニューヨークへ、私は出来ればニューヨークからヨーロッパを廻つて帰国したかったのですが、玄と私は船を指名されて帰国の止むなきに至つたわけです。